

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成31年 3月28日 提出

1. 視察概要

会派名	自民党おおさき市民会議
視察者名	相澤孝弘、相澤久義、早坂憂
視察日	平成31年3月25日
視察先	岩手県盛岡市 子育てサポートセンター
出席者	子育てサポートセンター総括責任者 認定 NPO 法人いわて子育てネット副理事長 両川いずみ

2. 視察内容

視察項目	子育てサポートセンターについて
視察内容	<p>今回の目的地1件目は、岩手県盛岡市の駅前にある「アイーナ」という、いわて県民情報交流センターの6階にある子育てサポートセンター。その管理運営を委託されているNPO 法人の方にご説明を頂けることになった。到着後、さっそく施設を見学させて頂きながらどんな施設か、そして行われている取り組みや利用者についてお話を伺った。</p> <p>子育てサポートセンターは開設から14年目を迎え、昨年度の利用者は29,500を越えており、本当に多くの方々にご利用されている様子だった。岩手県では平成27年に「いわての子どもを健やかに育む条例」が施行され、出会いから結婚・妊娠、出産、育児への切れ目のない支援の充実を図っているそうで、その中でもこの施設は子育て中の皆さんが気軽に、快適な空間で過ごせる場所の提供と子育てに関する相談や研修などを行える中核的な施設として大きな役割を担っている様だった。行われている研修も一般的な育児だけではなく、「パパの料理教室」や「子どもの成長を促す言葉がけ」等お父さんも積極的に育児に参加できる様な支援や子育てのヒントを得られる内容も充実し、講座の参加者が100名近くなる時もあるとのことだった。</p> <p>その後、質問を行いながらの情報交換では、指定管理者の立場から、予算の不足に対するリアルなお話もあった。限られた予算の中で一生懸命工夫しながら運営をしているが、人材不足の問題もある中で職員の確保が難しいこと、施設自体の休みが少ない(年末年始以外は基本的に開館している)ため、職員の休みの確保も問題になっていること。今年は特に10連休の時の対応が悩ましい…という話もあった。</p> <p>また、NPO 法人として出会いや結婚のサポートもおこなっているそうで、現在の生涯未婚率も話題にあがった。調査の中では、自らのお母さんが家庭でたくさんの我慢をしているのを目の当たりにしている若者も多く、結婚に悪いイメージを持っている女性が多いそう。そういったイメージの払拭も社会全体で行うべきなのかもしれない。そして、生活の中で赤ちゃんに触れないまま育つ人も多く、自分の赤ちゃんで初めて「赤ちゃん」と触れあう人も少なくないとの事だった。そのため経験があまりに浅い事も背景にあり、生後数ヶ月での虐待が最も多いというデータもあるようだ。学生時代にインターンシップ制度などを活用して、赤ちゃんや子どもの可愛さ、愛くるしさに触れる機会をもっと作るべきだとのお話が大変印象深かった。当施設を利用することで、息詰まってしまった育児から1時間だけでも離れることは悪いことではないという風に考えてほしい。そして、他のお子さんの姿を見て「もう少しで我が子もあんな風に育つのかな」という先の見通しを楽しみにしながら育児をすすめてほしいとの話もあった。最も興味を引いたのは、「おんぶの効果」についてだった。現在は赤ちゃんの顔が見えることで前抱っこが主流になっているが、「おんぶ」をすることで赤ちゃんが両親の行動を同じ目線で「疑似体験」できる、との話に強く頷き、情報交換を終えた。本当にたくさんの参考になるお話を伺い、多くの刺激を受けた視察となった。持ち帰って地元を活かしたい。</p> <p style="text-align: right;">報告書作成担当 早坂 憂</p>
他会派との合同実施	なし

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成31年 3月28日 提出

1. 視察概要

会派名	自民党おおさき市民会議
視察者名	相澤孝弘、相澤久義、早坂憂
視察日	平成31年3月26日
視察先	秋田県横手市 子育て支援センターなかよし 岩手県一関市 一関保健センター
出席者	横手市健康福祉部 子育て支援課長 織田秀介 一関市保健福祉部 子育て支援課長兼子育て支援センター所長 黒井直子 一関市子育て支援センター 副所長 千葉浩子

2. 視察内容

視察項目	横手市 子育て支援センターなかよしについて 一関市 一関保健センターについて
視察内容	<p>今回の目的地2件目は、秋田県横手市の子育て支援センターなかよし。駐車場についてまず目に飛び込んできたのは「乳幼児連れ優先駐車場」の表示。子育て政策に力を入れている印象をすぐに受けた。この施設は平成23年に市の交流センターとして再開発により完成。図書館や観光情報コーナー、市民活動スペースやトレーニングセンターもあり、4階建ての2階部分に支援センターが入っている。現在までで述べ230万人程が利用し、施設全体では1日平均500～800名の利用があるとのことだ。施設は新しさもあって非常にキレイで、利用しやすい雰囲気だった。開館すぐの9時にも関わらず、さっそく子ども達が複数遊びに来ていた。特に注目したのは施設の壁あちこちにたくさん貼られていた子育て情報。【だっこでのあやし方や遊び方、お出かけ・着替え・おふろ、ねんね、授乳、首がすわる前にやっということ・ダメなこと、イヤイヤスイッチがはいったとき、こどもの睡眠、なかなか寝ないとき、なかなか泣き止まないとき】などなど本当に細かい情報が手軽に見られるようにたくさん貼ってあり、相談するまでもない小さな事を利用者がすぐに確認できる様な気配りがあった。また、キッズクッキング教室も好評なようで、子どもの頃から食に興味を持たせ、親子のコミュニケーションも取れるイベントとなっていた。三本木の庁舎とスペースが似ていることもあり、(もしこうするならば・・・)とイメージできる素晴らしい施設だった。</p> <p>3件目は、岩手県一関市の保健センター。平成27年に完成し、地下には100トンの貯水槽や16基の災害用トイレ等がある、災害拠点施設の機能も兼ね備えている施設だった。特徴は子育て支援の施設の他に、乳幼児の検診も団体で可能な事、その時に気になる子どもさんがいた場合は個別に対応し、希望があれば発達支援も行える施設「かるがも教室」が併設されている事だった。個別の支援室を5教室設け、プライバシーに配慮しながら発達の段階に合わせて支援を行っていた。現在は40名程が支援を受けており、保健士や臨床心理士、保育士の資格を持った園長退職者を中心に保護者へのサポートだけでなく、公立の保育施設の職員に向けた研修も行いながら、多角的に発達障害に対するサポートを進めていた。その他、センターの情報をSNSで発信したり、市独自で有名な母子手帳スマホアプリとの連携を図り、自治体情報や地域のイベントの確認、予防接種の時期を計算・管理でき、成長記録も残せるなど、時代に合った支援と感じた。</p> <p>また、どちらの施設でもファミリーサポート制度を活用しており、預けたい保護者と預かりたい協力者とのマッチングを担いながらお互いのニーズに寄り添う施策も平行して行われていた。本当に参考になる部分が多く、ぜひ我が大崎市でも取り入れて頂きたい施策ばかりだった。その実現へ向けて真摯に取り組みたい。</p> <p style="text-align: right;">報告書作成担当 早坂 憂</p>
他会派との合同実施	なし

以上

